

送付先：ICT夢コンテスト2019 事務局 宛 (E-mail: [yume-oubo@japet.or.jp](mailto:yume-oubo@japet.or.jp))

## ICT夢コンテスト 実践事例応募用紙

※この応募フォーマットはホームページよりダウンロードしてください。

類似のコンテストに入賞歴の無い事例が対象です。有無を右欄に記入ください。				類似のコンテストでは無し	
この実践事例は下の要素の何々を含んでいますか。該当する項目の左に ● を記入してください。複数選択可です。					
●	効果的な授業	●	児童生徒の資質・能力向上	●	ICT活用指導力向上
	校務の情報化	●	保護者や地域への情報発信		ICT活用サポート
●	ICT活用推進		学校運営・管理		保護者や地域による学校支援
●	学校行事		通級指導教室・特別支援学級		地域での児童生徒学習支援
					その他 ( )

学校又は団体名 (実践時)	三鷹市立第一小学校				
団体種 (校種、NPO 等)	小学校				
応募者 <small>氏名漢字、職名、氏名カタカナ</small> ※連名での応募も可	代表者	崎村 紅葉	主任教諭	サキムラ モミジ	
	連名者				
学校や団体への所属年数(代表者)	10	年	ICT夢コンテストの今回を含む応募回数(代表者)	2	回目

実践事例タイトル (30文字以内・サブタイトル無し)	ICTを最大限活用した近未来の展覧会				
教科もしくは分野	図画工作	教科の単元がわかる場合 (複数可)	A 表現 (2)		
対象者 (学年・他)	全学年				
実践場所 (PC 教室、体育館等)	体育館	実践時期	2019年2月14日～16日		
活用したICT機器、教材、環境等	タブレットPC、PC、電子タブレット、プロジェクター、電子回路等	実践の特長 (先進性、普及性) をどちらか一つ選択 ※該当する項目の左に●を記入	●	先進性	
				普及性	

アンケートをお願いします。

コンテスト企画運営の参考にさせていただきます。番号を「番号記入欄」に記入してください。複数記入可です。

(問) 本コンテストをどのようにお知りになりましたか。  
 (回答群) ①案内ポスター ②案内チラシ ③事務局メール ④新聞等のニュース媒体から ⑤前から知っている  
 ⑥教育委員会からの紹介 ⑦上司や友人・所属団体からの紹介 ⑧JAPET&CEC ホームページより

番号記入欄	⑧								
-------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

※連絡先住所は、事務局からの郵送物を受け取れる住所をご記述下さい。また、E-mail 及び電話番号は、事務局から連絡を取らせていただけるものをご記述下さい。

- ・ 1 頁目表紙 (応募者情報) のフォーマットの変更は、ご遠慮下さい。
- ・ 応募事例の図や写真データの組み込みは自由です。参照URLは不可です。
- ・ 表紙記述 1 頁と実践事例内容記述 2 頁以内、計 3 頁以内で纏めてください。それ以上は受け付けられません。

各項目のフォントはMS明朝 11ポイントで記述して下さい。46文字/行、(1)~(3)項目の記述配分は自由です。

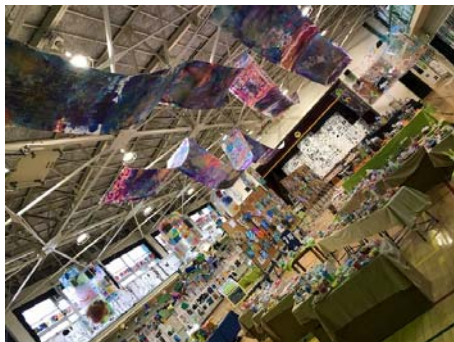
## 実践の概要（実践内容を5行以内で簡潔にまとめる）

2年に1度、学校で行われる展覧会でICTを最大限に活用した実践。

①プログラミングソフトでつくったプロジェクションマッピング、②ICTを活用した授業の公開、③電子工作の展示、④ARを使ったメイキング映像の公開など、ICTを最大限に活用して展覧会を開催した。

ICTを活用することで、展覧会で子どもの表現の素晴らしさを効果的に保護者地域の方に伝え、子どもたちの表現活動の幅を広げた、

### (1) ICT活用の目的とねらい



東京都の公立小学校では、2~3年に一度、展覧会が行われている。展覧会が行われない年は学芸会や音楽会が行われている。学芸会や音楽会は子どもたちが輝いている姿を保護者地域に鑑賞してもらうことができるが、展覧会は作品を展示するのが主になるため、子どもたちが輝いている姿が伝わりにくい。

今回は、ICTを活用することで子どもたちが創意工夫しながら活動している姿を伝えたり、作品を効果的に展示したり、ICTを取り入れた題材に取り組むことで子どもたちの表現の幅を広げたいと考えた。

### (2) 実践の特長・工夫（先進性があるか または普及性があるか）

今回の展覧会の特徴は、①プログラミングソフトでつくったプロジェクションマッピング、②ICTを活用した授業の公開、③電子工作の展示、④ARを使ったメイキング映像の公開の4点が挙げられる。

#### ① プログラミングソフトでつくったプロジェクションマッピング

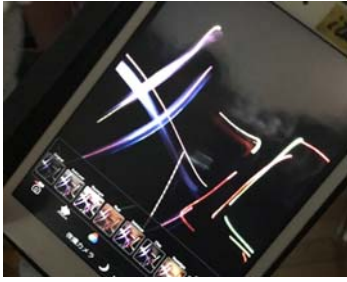
学校に三鷹市在住のピアニスト中川賢一さんをお招きし、演奏をしてもらい、その演奏を鑑賞したイメージをもとにイメージを広げ、Viscuitで音楽に合わせて動く絵を描く授業を行った。

その後、子どもたちは発泡スチロールで大きな城をつくり、その城にViscuitで描いた動く絵の作品を音楽に合わせて投影し、プロジェクションマッピングにして発表した。

この作品は、三鷹市芸術文化センターで行われたコンサート中にも、会場の壁面に大きく投影してもらい、多くの人に向けて発表することができた。



## ② ICT を活用した授業の公開



展覧会当日は ICT を活用した授業を保護者地域の方に公開した。(1) 6年生で、電子タブレットのシャッタースピードを変えてペンライトを動かしている様子を撮影して光で絵を描く授業、(2) 6年生で、電子タブレットで写真を撮ってつなぎ合わせせることでコマ撮りアニメーションをつくる授業、(3) 5年生で、SONY の MESH を活用したビー玉迷路をつくる授業などを行った。

どの題材も、ICT を活用することで子どもたちは、より創意工夫して面白い作品を生み出すことができた。図画工作の教科のねらいを達成するために、効果的に ICT を取り入れることができた。

## ③ 電子工作の展示



6年生の共同制作では、「動く!? 未来の遊園地」をつくり、展示した。電子回路の little Bits を使って動くアトラクションをつくり、未来の遊園地として展示した。動く観覧車や空中ブランコ、メリーゴーランド、ジェットコースター、シャボン玉が出るアトラクションなど、様々な作品を生み出すことができた。自分たちの遊園地の工夫は、パソコンでプレゼンテーションをつくり、発表し合った。

## ④ AR を使ったメイキング映像の公開



(AR を見ている様子)

東京書籍の「マチアルキ」を使わせてもらい、スマートフォンや電子タブレットをポスターにかざすと、子どもたちが図工の授業で作品をついている様子を AR で閲覧できるようにした。また、「未来の遊園地」の作品にかざすと、作品が動いている様子も閲覧できるようにした。

展覧会には、地域保護者の方だけでなく、都内中から図工専科の教員が来場した。展示の様子は教科書会社の取材を受け、都内だけでなく、全国から問い合わせがくるものとなった。

## (3) 実践の成果 (子どもたちや教員はどう変わったか、絆の深まりは見られたか等)

ICT を活用することで、子どもたちが創意工夫して作品を生み出している姿を、保護者地域の方々に効果的に伝えることができた。展覧会の保護者アンケートでは「作品だけでなく、作品をつくっているときの素晴らしい姿も見ることができた。」「新しいもの (ICT) を取り入れることで、楽しそうに工夫して活動していてよかった。」「プロジェクションマッピングを見て、『子どもたちがここまでできるのか!』と感動した。」などの感想が寄せられた。子どもたちの個性を保護者地域の方に伝えることで、絆を深めることができたといえる。



(little Bits で電子工作をしている様子)

また、ICT を授業に取り入れたことで、図工が苦手な子どもも楽しみながら造形活動に取り組むことができた。本校では毎年、子どもによる授業アンケートが行われている。授業アンケートの図画工作の結果において、前年度までは肯定的な回答が 90~95%であったが、今年度は 95%以上が肯定的な回答となった。特に、「授業で学んだことが身に付いた」という項目については 6年生の肯定的意見が 100%になった。ICT を活用することで、自信をもって図工に取り組むことができるようになったといえる。